

## 七 山崎農業研究所農業賞受賞（昭和五十七年）

### 1 山崎不二夫先生の来訪

昭和五十六年九月上旬頃、茨城大学農学部のエ先生から山崎農業研究所の委員の御一同が大八洲開拓を視察に訪れたいというお話がありました。従来から視察や見学に来訪した方や団体は度々のことであつたので、いつものことのように思つて前日から会場の準備だけはしていましたが、九月二十七日に山崎農研代表委員の山崎不二夫先生はじめ二十二人の諸先生が見えられたので、まず会場の流作公民館に御案内した。

会場においては高橋組合長が、大八洲開拓の入植から今日までの由来や組合の状況等について一応の説明を申し上げてから、婦人部と青年部の出席した部員達と先生方々との間で午前中懇談的に会合がもたれ、昼食を終えてから午後は組合管内を視察に回られた。

エ先生は昭和五十一年六月においでになったのが最初で、当時は佐藤組合長も在生中でしたから組合の内容等も十分認識があり、農業機械が専門でいられるからライスセンターの大型コンバインや流作地区のトラクター組合の農業機械の共

同利用の実態調査等に毎年のように見えていたのでよく存じていたのですが、他の先生方は初めての来訪ですから組合の状況説明や懇談および見て回られた上でどのような感じになったかと気がかりではあつた。

その後、翌年の五月八日に東京で開催した山崎農研の総合農学会において話してくれとの依頼があつたので、高橋組合長と婦人部代表で庄司きい及び青年部代表で杉原利昭の三名が出席して大八洲開拓について説明や報告を再度行つた。

それから間もなくして、思いもよらない農業賞を贈るからとの連絡があり、五十七年七月三日の第九回山崎農業賞贈呈式に前出の代表三名が出席して農業賞ならびに金一封を頂戴した。

大八洲開拓は満洲開拓の引揚げ者であるから家もなければ土地も金もない、丸裸の体一つが唯一の財産であり、農業の経験しかない我々には日本に帰つても再び開拓をするしか生きる方法がなかつた。

それが幸にも国の国内開拓事業と一致したお陰で大八洲開拓の今日の姿までに成長することができたわけで、人に取り上げてもらうようなことは何一つないにもよらず素晴らしい



昭和57年7月3日 山崎農業研究所農業賞を受賞する高橋組合長と庄司きいさん、杉原利昭さん

賞をいただいて恐縮している。

この賞は過去の組合や組合員の在り方よりもこれから先の我々の生き方に対して警鐘をお与え下さったものと自戒して、諸先生のご期待に添い、また賞を汚さぬよう心掛けて今後とも切磋琢磨して参ることを誓って感謝の言葉に代える次第です。

賞状

大八洲開拓農業協同組合 殿

貴組合は入植以来三十余年の間「人間の幸福をつくる」ことを目指し深い同志的つながりと共同の力で種々の苦難を乗り越こえ独自の営農と生活を築きあげてこられましたよって第九回山崎農業賞を贈呈します

一九八二年七月三日

山崎農業研究所

代表 山崎不二夫 印

## 2 受賞代表者のことば

このたび、私ども大八洲開拓農協に対し光栄ある第九回山崎農業賞を受賞させていただき、組合員一同に代わり厚く御礼申し上げます。私どもの生活については、林先生から私らよりなお綿密にお話し下さり恐縮しております。先程来、受賞者の各先輩からご懇篤なるおことばを賜り、私ども胸にしみて、今後もしも山崎賞を汚すことなく精進したいと思います。ただし集団バラバラの人間の集まりですから、ややもするといろんな問題が起きましようが、その際はいち早く諸先生方のご意見を賜り、今後ますますご支援を願えますれば賞にすぐる有り難いことと組合を代表して御礼を申し上げますとともに、先生方にお願ひ申し上げ挨拶いたします。ありがとうございます。

大八洲開拓農業協同組合 組合長 高橋 辰左エ門

今日はこんな立派なところで表彰いただきありがとうございます。何もできない私ですが、ただ土地に生きるということとで開拓に専念しております。私たちは、お互いに心と心の触れ合いをもって皆で楽しく生きていこうということをやっております、特別なことはありません。

皆さんに「どうしてこういう仲のよい生活をしていけるの

ですか」と言われますが、別にどうこうということではなく、小さい時からの家庭生活と組合長さんの指導で自然とこうなってきたんだと思っています。

婦人部の活動といっても一般の人々の集まりのように立派な先生を招いて勉強しようというのではなく、一人一人思ったことをざっくばらんに出して、聞いて、その人のよい話を皆がやっていくということなんです。本当に裸の中から立ち上がったということ、困った人がいれば自分の家のことは全然頭におかず、なんとか役に立ちたい気持ちで動いています。別にとりたてて述べることもないと思います、どうして賞をいただいたのかなと今しみじみ考えています。ありがとうございます。

婦人部代表 庄司 きい

先程、菱沼先生からむづかしいことを出され困ったのですが、私どもは親父達が共同生活をして生まれた子供で、共同生活以外に生きる道を教えてもらっていないから、共同生活でやっていくというだけなのです。

何をするにも一人では限度があるので、一人でも多くの人と手をつないで助け合っていくのが二世の道だと思っています。

青年部代表 杉原 利昭